

釧路川治水100年

大正9年、未曾有の大洪水が釧路市街地を襲った。

大正10年、釧路川の本格的な治水事業が始まる



釧路市在住のイラストレーター
深田堅二さんが釧路川治水100年にちなみ
釧路川新水路掘削の様子をエピソードも
含めながら、イラストで表現してくれま
した。



深田堅二さんは、絵画や立体作品など多くの作品を手掛けており、道内を中心に作品展等を開催しています。

今回、釧路川治水100年記念事業の取組に賛同いただき、地元の皆様に釧路川の歴史や治水に興味を持ってもらいたいとの思いから、イラスト作成にご協力頂きました。



次ページで
ご覧下さい

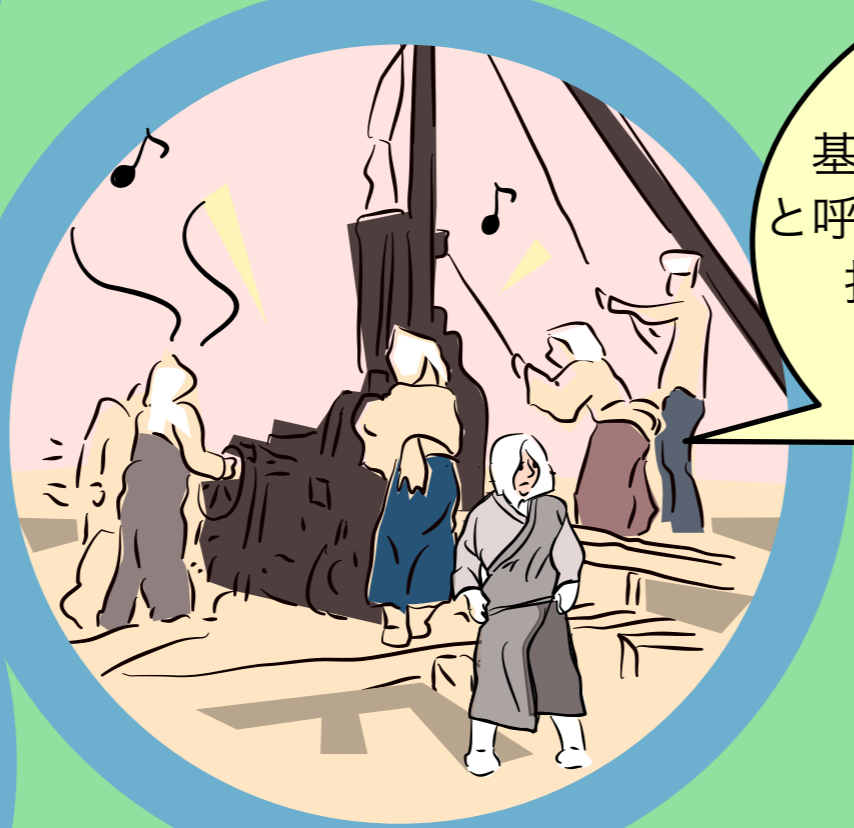
釧路川治水100年

大正9年、未曾有の大洪水が釧路市街地を襲った。

大正10年、釧路川の本格的な治水事業が始まる



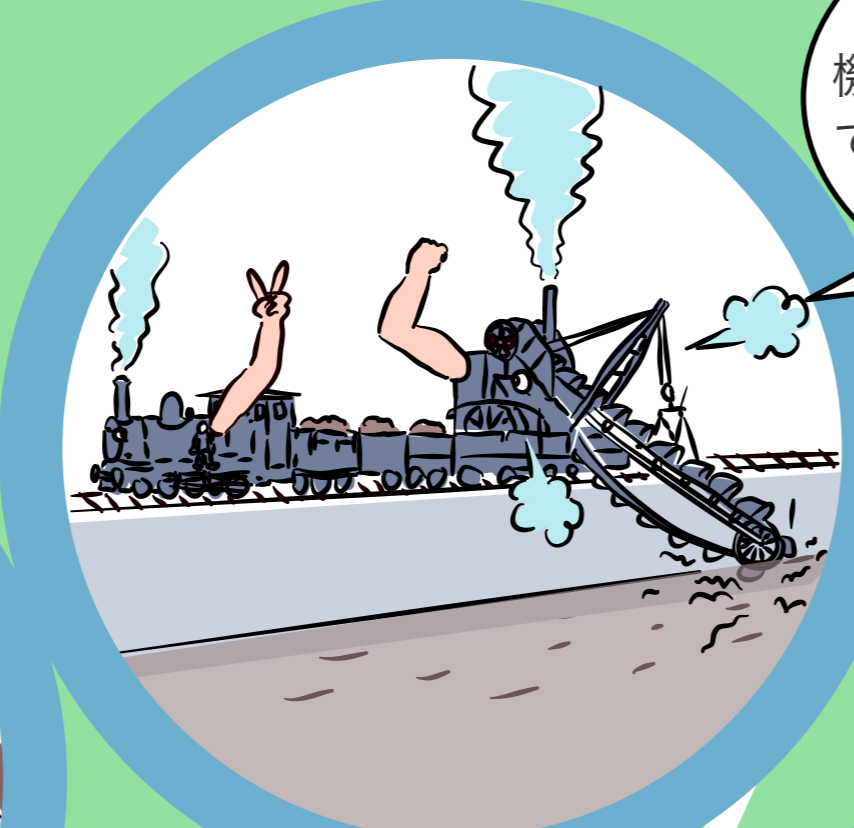
はじめは、エキスカレーターの線路を敷設するため、新水路の中央に人力で排水溝を掘り、地盤を乾かす作業が行なわれた。泥炭湿地での人力掘削は相当な重労働であった。土工夫100人程度、馬20頭が従事した。



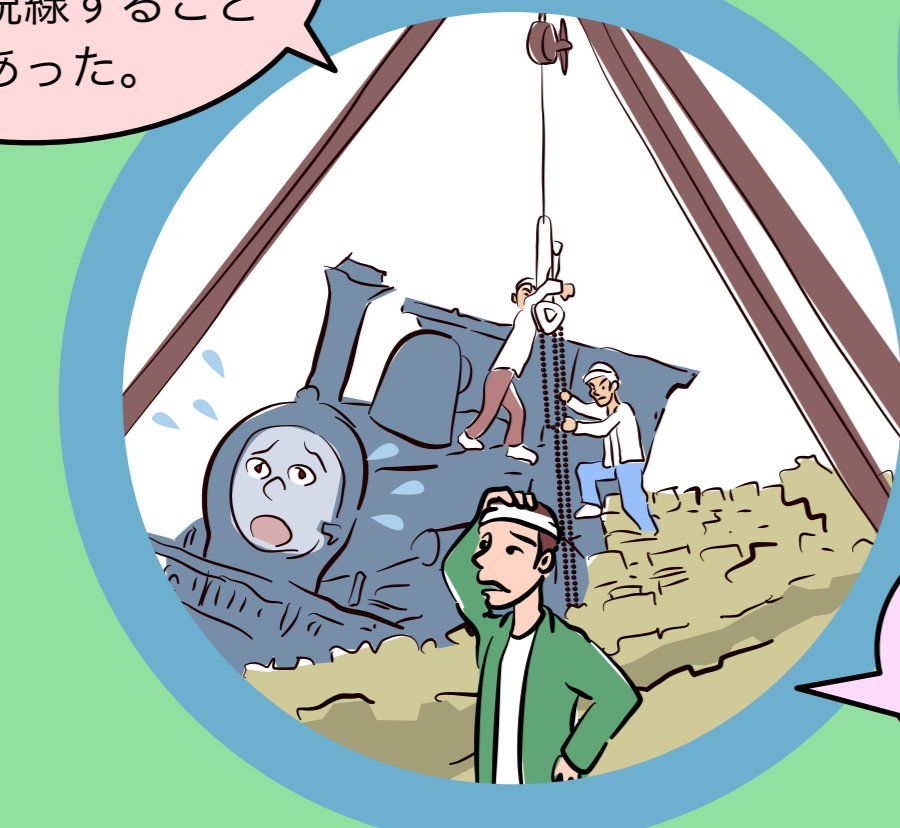
エキスカレーターの線路を基礎杭で固定する作業。モンキーと呼ばれるおもりを女性作業員達が打ち落とす土木女子(ドボジョ)の始まり? 労働歌を唄いながらの作業は楽しみもあったとか。



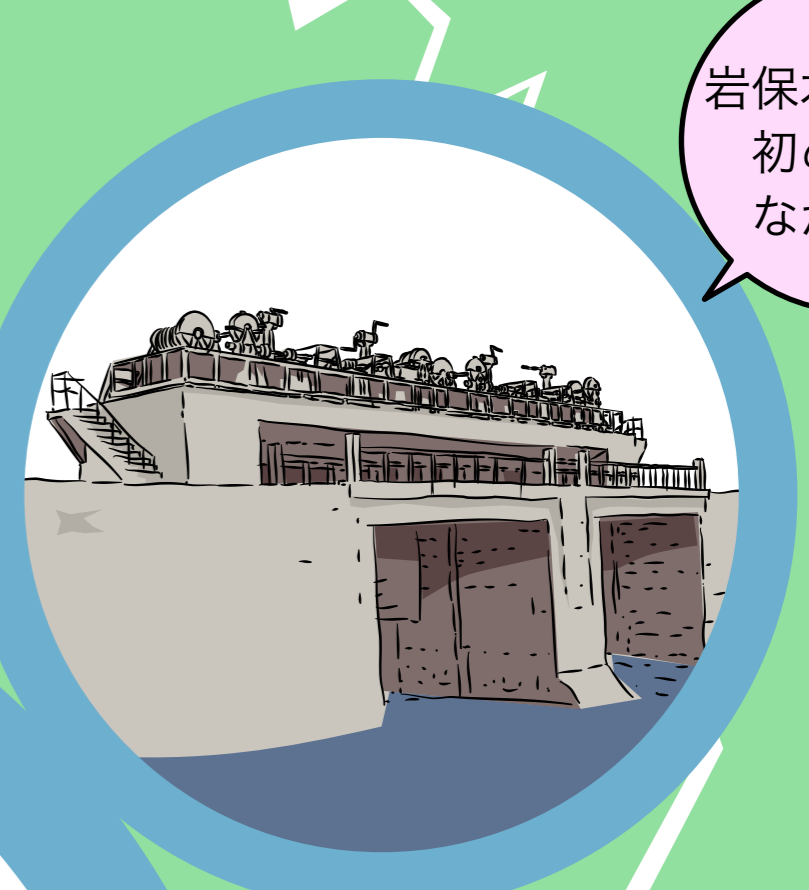
土運搬線路は地盤も悪く、保線が難しい。たまに脱線することもあった。



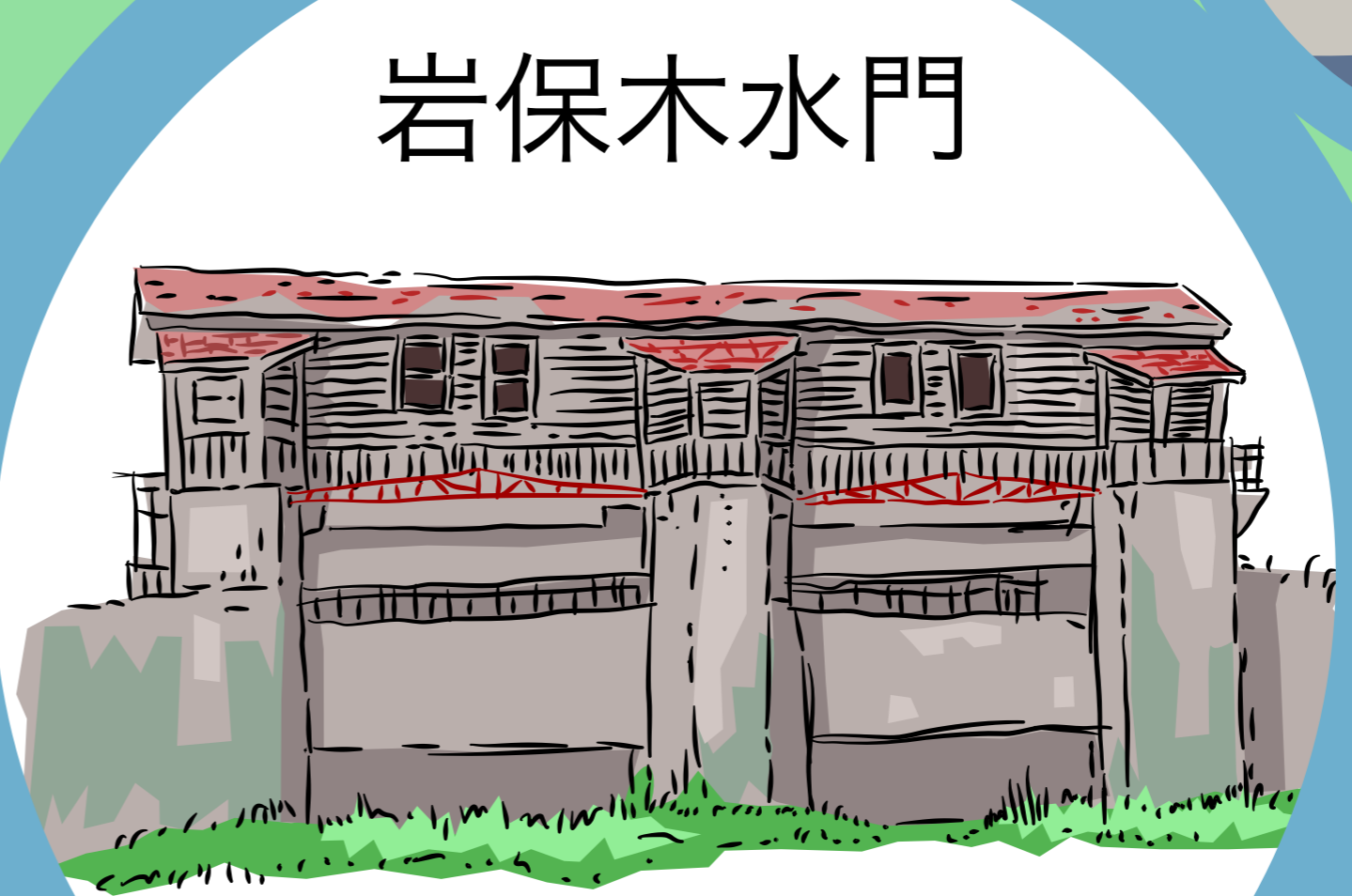
最新鋭のエキスカレーターで掘削した土を機関車が引っ張る運搬車に載せて場外へ搬出。作業量は当時の土工夫の150人分に相当した。



吊り上げて復旧することも。ヤレヤレ...というところ。

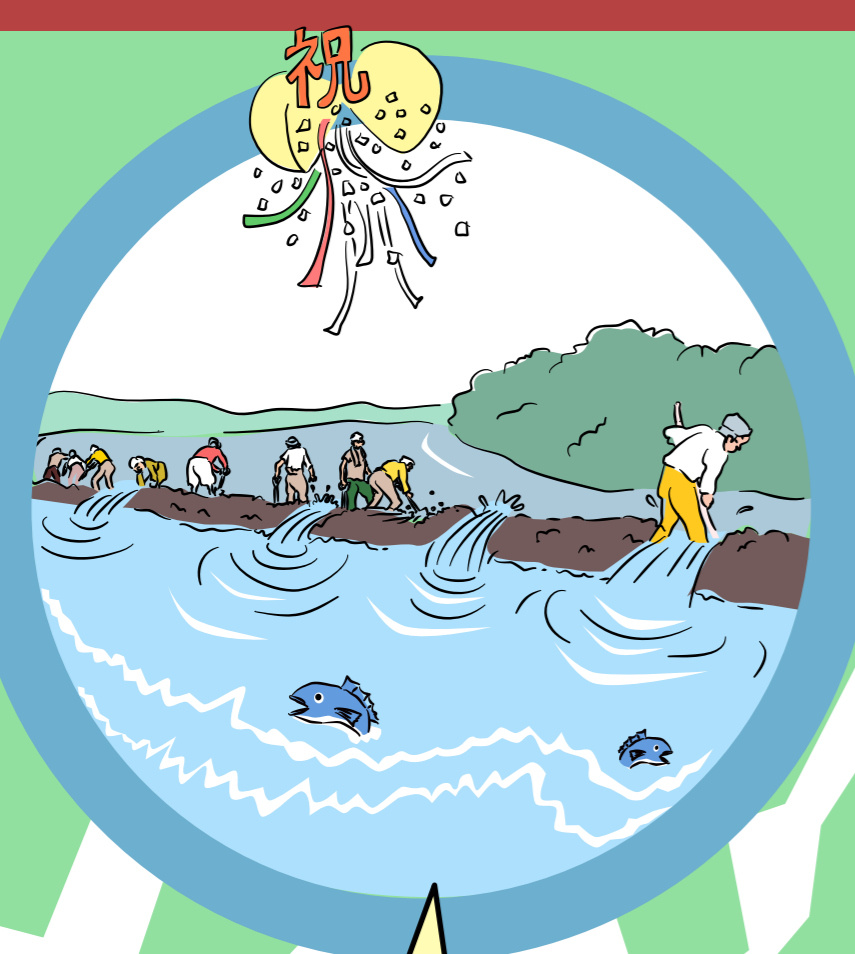


岩保木水門は、初め屋根がなかった。



岩保木水門

昭和5年、釧路川新水路誕生

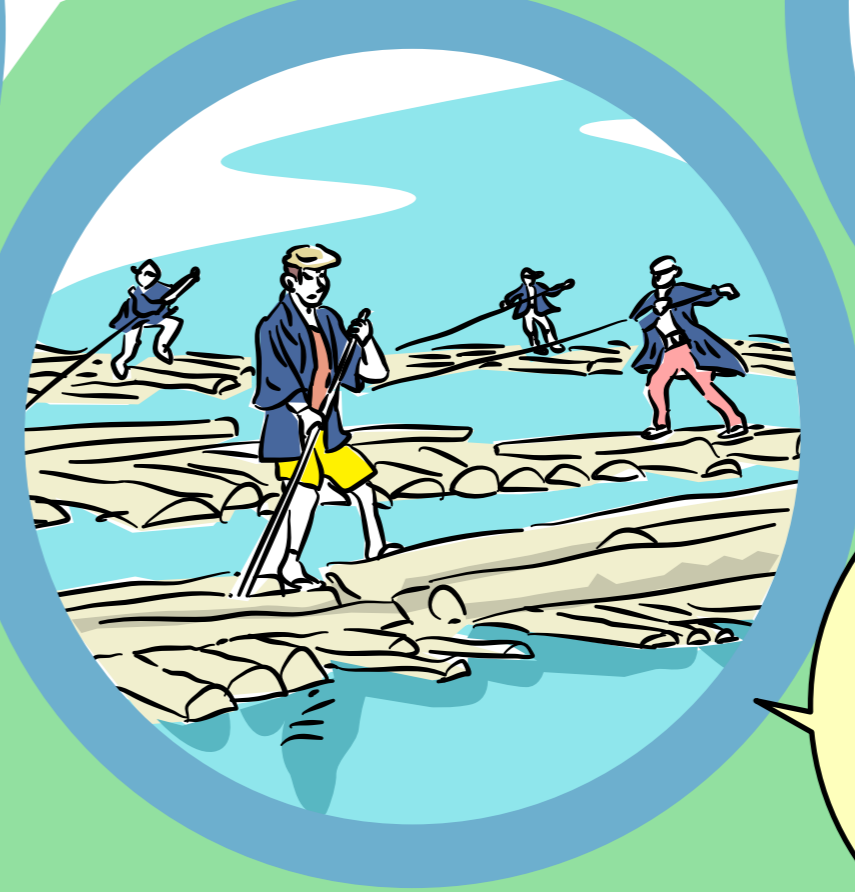


ようやく10年目にして通水の日がやってきた。関係者の全ての努力はこの日のためにあった

S6年9月19日釧路川通水式、翌日は釧網線の全通式



新水門



昔は釧路川の流れを利用した木材の流送が盛んだった。しかし、釧網線の開通により次第に木材運搬は鉄道にかわっていった。

木材運搬は、釧網線を活用